

第19回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会 議事録

日時：平成29年7月10日（月）

午後1時30分～午後3時40分

場所：もんぜんぷら座3F 304会議室

・出席委員：6名

竜野泰一委員、金澤玲子委員、越原照夫委員、渡辺晃司委員、石川利江委員、柳瀬亮太委員

・欠席委員：1名

樋口敦子委員

1 開会

2 都市整備部長あいさつ

3 評価専門委員会委員長あいさつ

4 事務局職員自己紹介

5 議事

(1) 第二期長野市中心市街地活性化基本計画の総括について

<資料1>（説明者：事務局）

委員 長野市が手掛けた事業は良くできているが、民間が抜けていることが問題。中心市街地に魅力ある集積が欠けていて、歩行者通行量や居住人口の未達成に関わっている。長野市でも中心に賑わいのあるお店づくりをやっていかないといけない。

駅ビルの影響も色濃く出ていて、商店街の売上は今後も落ち込んでいく可能性がある。次期への取組の中で商業をどうするかという文言を入れてもいいのでは。

長野市が道路整備をして景観を綺麗にしたが、それだけで客は来ない。商業が元気でないと思わないと思うので、そこを加味しながら次の事業への取組をお願いしたい。

事務局 民間商業をどうしていくか、どう書いていくかということについては、庁内調整等を踏まえていく時間をいただきたい。

委員 目標の「住みたくなるまち」の説明で人がそんなに増えていないということだが、実際は中心市街地エリアの外側に結構マンションができています。

評価の数字には表われていないが、フリンジ（周縁）に人が増えてきていて、賑わいに寄与しているのではないかと思うので、そういう認識は必要な気がする。

事務局 日本全体として人口減少局面に突入している中で、長野市の中心市街地だけが増加することは難しいが、中心市街地の人口そのものは増加している。移住・定住促進事業などの効果により、計画策定時の想定より総人口の減少が食い止められた結果、相対的に中心市街地人口の増加率が穏やかに推移したということである。

委員 権堂B-1地区周辺にマンションができてきて、事業者には聞くと造れば売れる状況。周りから中心市街地に住みたい需要は我々が考えている以上にある。そういう意味ではもう少し評価してもいい。

委員 今はちょうど面白い時期で、外から入って来たい人の中でも色々な需要があるので、行政が関わることによって民間ではできないファイナンスと住み方が長野方式でできるかもしれない。

委員 当面の間は前計画を時点修正した長野市独自の計画を策定し、とあるが、やれるところから検討したいとか前向きの表現が欲しい。

実際に空き店舗が埋まることはいいが、居酒屋とか飲食関係は、営業時間からしてもあまり通行量には関係ない。埋まったから良しとするのではなく、何か違うものがないと通行量は増えないと思うので、数の目標の他に人間的、質的な観点があるといい。

事務局 人口増の元になったマンションとかが、指標以外の部分で評価されているという有難いお話をいただいたが、市として直接マンションを呼び込む事業として捉えていなくても、これまでの取組が周辺の状況とともに形になってきたと考えている。

飲食関係の店舗が賑わいにつながりにくいという指摘については、例えば空き店舗数の減少が見られた部分についても、営業時間等々の違いから通行量等に直接反映された状態には至っていない、といったような表現を記載に加えさせてもらいたい。

(2) 市独自の中心市街地活性化プラン策定について

<資料 2-1, 2-2> (説明者：事務局)

委員 中心市街地活性化基本計画たるものは、長野市が真剣になることが重要で、国が何を言おうが、我々はこうあるんだということをしっかり主張していくのが必要なので、非常にいいことだと思う。タイミングが合って国から応援いただけるのであれば、事業が具体化してきた時点で国にアピールする意味をもって第三期の認定を受ければいいと思う。

エリアに長野市美術館の部分が加えられているが、文化を取り込むとなると、ここを入れないと厳しい。長野市はそうでなくても文化が弱いので、エリアの中に文化的な要素や歴史がある建物の一つくらいあってもいい。

委員 エリアを広げていけば確かに中身は充実するが、勝手に広げていいのか。

事務局 エリアの拡大については、既に国と調整する中で拡大したエリアで素案を提示してきたが、特に問題という指摘はもらっていないので、機が熟した段階でこのエリアで認定申請しても、それが問題となって認定が受けられないということはないと予想している。

委員 拡大することに反対しているわけではなくて、決められたエリアを前提とした会議なのが、今日いきなりエリア広がりましてというのはどうかということ。エリアを増やせば人口も通行量も当然増えるし。

事務局 突然エリアが増えるということではなくて、今まで10年やってきた中で、一応中央通りについては北が終わって今度は南をやることで、駅から善光寺までしっかりとした軸ができる。軸が善光寺まで行ったら今度は城山公園と一体的な周辺整備をやっていく。そういったことで長野駅から善光寺まで大きな筋で整備して、そこに核事業を貼り付け、文化的なものも取り込んでいく。今までの中心市街地から若干増えてはしまうが、今後新しく作る長野市のプランに、考え方として入れたいということでやっている。

委員 もんぜんぷら座と生涯学習センターの利用者が減っても、イーストプラザを入れると今度は基準値を達成できるとあるが、減った分については考えなければいけない。施設を新しく足して満たされるという問題ではなくて、広報をもう一工夫考えてもらった方がいいのかもしれない。施設利用に関して一部の人は良く知っているけど、一般にはまだ知られていないというのがある。

また、今どンドン子供だけで出歩くなという風潮が強くなっていることも、人の賑わ

いに関係しているのではないか。

委員 区域には善光寺までと長野市芸術館までは加えるほうが自然な流れだと思う。市と県と善光寺という三者の関係性には難しいところがあり、長野市がこれから善光寺と県との間で果たす役割は非常に大きいと思っているので、これからの城山公園も含めた計画に関して、市がイニシアチブを取って、良い計画がまとまってほしいと願っている。

文化的な集積に関して言うと、長野市内の文化度はこの5年10年で上がってきていると思う。表に出にくいところもあるが、フリンジ（周縁）の力が最後は中心を支えていく。そういう長野市の中にある小さな文化の場が育とうとしている所をいろいろな形で応援してもらえればと思う。

(3) 権堂地区再生計画について

<資料3>（説明者：事務局）

委員 今日は説明だけですか？

事務局 そうです。正副部長と協議した結果をもって評価検討部会の決定とした上で、決定したものを報告案として当委員会で協議するということになるので、本日のところは状況だけ把握いただきたい。

(4) もんぜんぶら座の在り方について

<資料4>（説明者：事務局）

委員 建物の下の土地はまだ一部誰かの所有なのか。売却は検討できないか。

事務局 敷地面積3,936.26㎡のうち、市有地は2,705㎡、民有地が1,230㎡ほど。今後施設の在り方を考えていく中で、現状規模の施設が維持管理可能かどうか、しっかり判断しないといけない。その中で例えば今よりも小規模の建物ということになってくると、場合によっては市有地の中だけで活用をしていくことも、十分検討の中に入れていくべき。

一方で、市が今後も使うことができるような条件が提示されることも併せて考えるなど、ゼロベースの中で、バリエーションをある程度想定していきたい。

委員 この議題は当委員会の中に検討部会を設置することの確認か。

事務局 この件については、これまで議会にも説明してきた中で、中心となる当委員会でもできるだけ早く情報を共有していきたいということと、今後当委員会の組織の一部として専門部会を設けたいというのが事務局の考えなので、次回お諮りして、お認めいただけたらその形で進めていきたい。

(5) その他意見等

委員 中心市街地のエリアを善光寺裏の駐車場まで広げて、駐車場を廃止して蓮池を復活させられたらいいと思っているが、取り組む気はないか。

事務局 現状でそこまでの検討はしていないが、県と市と善光寺と、どのような仕組みで売り上げを伸ばすかとかの話になってくれば、順次考えさせていただきたい。

事務局 区域についての話があったが、現実的に内容が詰まらない中では区域として入れるのは難しい。ただ、そういうことは今後念頭に起きたいとは思っている。

信濃美術館の関係だと、長野市で城山公園再整備検討委員会というのを設置し、県の委員会とも連携して、信濃美術館と前庭である噴水広場の整備について今後検討していく。そこには善光寺も加わっているので、善光寺東庭園と城山公園を一体的に捉えて、お客さんが善光寺を参拝してから公園に来るような流れを考えていきたい。

委員 桜並木も今回の計画に入っているのか。

事務局 まずは美術館と前庭の噴水広場が今年度の対象で、その後城山公園一帯の在り方も含めて、市民の意見を聞きながら進めていきたい。

委員 区域内の車の問題はどうか。方針的に車を優先するのか歩行者を優先するのかブレているとなかなか整理もしづらい。商業的な面も考えると難しいのは分かるが、どっち付かずで行くのはよろしくない。

事務局 長野市で昔から目指している交通制度の方針は、中央通りについては歩行者優先道路化して、将来的にはトランジットモールみたいにしよう、というような形の中で検討されてきているが、一般車両を排除してうまく回せるかと考えるとなかなか難しい。

ただ、現在環状道路や中央通り北側半分はできあがって、今後南側も整備する中で、将来的には中央通りから一般車両を排除できるような気持ちを持って、方向性として目指すべきものはそういったところもあるのではないかと感じている。

委員 そういう車両を排除した地域ができると、人が集まってくるというのも考え方としてはあると思う。公共交通が周りに発達せざるを得ないというか、交通を整備せざるを得ない。そうなるとうどんどん良くなっていくんじゃないかと思う。

委員 資料2-1の図で、中央通りが黄色くなっている理由は。

事務局 中央通りを軸として事業を展開していくイメージを分かりやすくする為に強調して示したもので、特に事業の区域とかではなく、ランドマークとして着色した。

委員 長野市の中活のコンセプトみたいなものか。

事務局 そうです。資料2-2の区域設定の考え方というところで、長野市民のみならず様々な人々にとってかけがえのない支柱となる区域と謳っているのも、この中央通りというものをシンボルロードとして大事にしていくべきだと考えている。

委員 そう考えると、善光寺まで行かないのが不可解な感じがする。

事務局 中央通りということで大門の交差点で止めてしまったが、表参道として考えると確かに山門まで伸ばしておいた方が分かりやすかった。

委員 権堂再生計画のテーマとして“楽”自体は悪くはないが、娯楽・歓楽の部分で、そのように利用される街が魅力的に感じるかと考えると疑問。最終案として公開するのが9月頃ならば、もう少し練られてもいいのではと思う。

委員 歩行者数の計測で駅前にペDESTリアンデッキができた時に、地点として不利になっている所があったはずだが、こういう時に修正してもらいたい。

事務局 ペDESTリアンデッキについては、完成した平成27年のフォローアップ報告から、既に調査地点の統計に含めている。

事務局 権堂再生計画のテーマについては、部会あるいはその前のワークショップの意見として十分検討されて策定された言葉で、思い入れがあるという委員もいて、そこを壊さないように新たな意味合いを加えるべく文言を調整してきたので、また個別にご指導をいただきたい。

6 連絡事項

次回の委員会は8月17日(木) 同時刻同会場の予定

7 閉会